

氏 名 遠藤 香子

学 位 の 種 類 修士（看護学）

学 位 記 番 号 修士第218号

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第3条第1項

学 位 授 与 年 月 日 平成29年 3月10日

学 位 論 文 題 目 精神科の入院患者に対する看護師の笑顔を取り入れたコミュニケーションの意図

審 査 委 員 主査 教授 遠藤 善裕

副査 講師 坂東 春美

副査 講師（学内） 白坂 真紀

## 論文内容要旨

※整理番号	223	(ふりがな) 氏 名	えんどう きょうこ 遠藤 香子
修士論文題目	精神科の入院患者に対する看護師の笑顔を取り入れたコミュニケーションの意図		
<p>I. 研究の目的</p> <p>本研究の目的は、精神科の入院患者に対する看護師の笑顔を取り入れたコミュニケーションの意図を明らかにすることである。</p> <p>II. 研究方法</p> <p>公立の精神科単科病院に勤務し、かつ精神科救急病棟での勤務経験のある看護師 6 名に対し、インタビューガイドに基づき半構成面接を行った。得られたデータは質的帰納的手順によって分析した。</p> <p>III. 結果</p> <p>質的帰納的に分析した結果、56 のコード、25 のサブカテゴリー、9 のカテゴリーが抽出された。カテゴリーは、【看護師が患者とコミュニケーションをとる時の基本】、【同意できていない治療を患者が受ける時には笑顔を示さずに対応】、【患者の状態によって心を乱されず平常心を保ち看護活動を遂行】、【笑顔を尺度として患者の状態を観察】、【同意していない精神科入院治療を受ける患者の気持ちの緩和】、【看護師が患者に患者の思いや緊張を受け留める余裕があることを提示】、【患者同士の意思疎通に行き違いが生じやすい環境の緩和】、【患者へ看護師との関わりを通して人との関わり方を学ぶ機会の提供】、【社会生活のモラル違反には笑顔を示さず対応】であった。</p> <p>IV. 考察</p> <p>看護師が笑顔を取り入れる意図には、笑顔を用いると、笑顔を用いないと、笑顔を用いると用いないとが混在したコミュニケーションの意図が混在した。このことから、看護師は自身の笑顔を意図的に使い分けていることが推察された。【看護師が患者とコミュニケーションをとる時の基本】に始まり、笑顔は看護技術の一つであった。【看護師が患者に患者の思いや緊張を受け留める余裕があることを提示】することで、患者自らが自己判断や決定ができるようにセルフケア能力の支援をし、【患者同士の意思疎通に行き違いが生じやすい環境の緩和】は精神面において残存している健康的な部分でのコミュニケーションを患者が求めており、そうした健康支援に意図して笑顔が用いられていると推察された。</p> <p>V. 総括</p> <p>看護師が自身の笑顔をコミュニケーションにおいて意図的に用いる、用いないことにより、それぞれに異なる看護活動を可能にしていた。このことから、笑顔による看護介入の可能性の大きさ、そして表情が看護技術の一つであるとの示唆が得られた。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1, 200 字程度)

2. ※印の欄には記入しないこと。